



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2011

1月1日号

124
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024(559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

公益法人元年へ



会長 鈴木 憲二

明けましておめでとうございます。

昨年は民主党になってから1年余りが経過したが国民が抱いていた期待感を裏切る結果となり政府の支持率も20%台に低迷している。国民の生活は低価格の商品購買へ移行し、ますますデフレ傾向が強くなっているがエコカー減税、エコポイントの導入により景気低迷に有る程度の歯止めがかかったようである。

日本放射線技師会も昨年度の総会で中澤新会長体制ができ、都道府県技師会と日本放射線技師会との差別をなくして会員の利益になるような事業を推進する下地が出来たと思うので、ご協力をお願いしたい。再入会については熊谷元会長時代の強引な手法による会の運営に反対して退会された会員に対して再入会金を免除する事になった。福島県放射線技師会の会員の方が日本放射線技師会へ入会(再入会)希望の場合に入会金(再入会金)は免除されます。また会費滞納により日本放射線技師会を除籍された元会員の再入会時の未納会費の請求は最高2か年度分となりますので是非この機会に再入会をお勧めします。(この措置は平成24年3月31日まで、または公益認定を受けるまでに入会申請を受け付けた元会員)

一昨年は福島医大で生涯学習セミナー「X線CT検査」を開催したが、今年は診療放射線技師基礎講習として「MRI検査」を2月11日(祝日)秋田市秋田県総合保健センター大会議室、2月13日(日)は東北大学医学部臨床講義棟2階臨床大講堂で開催します。申込は日本放射線技師会のホームページから。

昨年の6月に公益法人移行申請を提出したが、審査担当者の転勤により再度提出することとなり、公益法人移行申請に向けた文書の再チェックを行い、今年度末に公益法人認定を受ける予定です。診療放射線技師が最新の技術を取得し、豊富な知識を持ち個々にレベルアップして資質の向上する事により、県民に対する医療レベル向上へとつながり、この事が公益性のある重要な事業として認められるため、今年も各分科会や研究会で研修や講演会を開催しますので是非とも受講することを希望する。また公益性のある活動を県民にアピールするために新しく本会のホームページに「一般の皆様へのページ」を作成して診療放射線技師の仕事の内容等について記載し、一般公開講演についても講演内容を詳細に記入して参加を促すこととした。

今後とも公益法人として本会が推進する事業にご協力をいただき、多くの会員が福島県放射線技師会が主催及び共催する事業に参加して多くの知見を得る事を期待します。



謹賀新年



「平成22年度放射線技師学会」 開催される

10月31日(日)平成22年度放射線技師学会大会が福島県立医科大学講堂で開催された。

今年は、「地域医療に貢献するICT：情報通信技術」と題して富士フィルム株式会社 舟橋 毅先生による国が進めている情報通信技術を利用した地域医療のあり方など興味ある一般公開講演で学会大会が始まった。



続いて開会式が行われ、新里実行委員長の挨拶、鈴木憲二県技師会会長の大会長挨拶の後、平成21年度学術奨励賞の授賞式が行われ、「3D-Resolutionを考慮した画像再構成条件の検討」福島県立医科大学附属病院 永井千恵、「当院におけるVirtual WedgeとPhysical Wedgeの比較検討」白河厚生病院 田代 和広の両氏に贈られた。続いて学術発表が行われ今年度の演題総数は昨年の25題から大幅に増え39題であった。その内訳は「PACS・フィルムレス」8題、「MRI・一般・他」4題、「乳腺画像」5題、「CT」5題、「DSA・被ばく・他」4題、「RI・PET」6題、「治療」7題であった。

ランチョンセミナーは「MRI造影剤の安全性と今後の展望 (NSF問題とは何だったのか?)」と題して浜松医科大学放射線部准教授 竹原 康雄先生より講演をしていただき、大変有意義なランチョンセミナーとなった。

(今野)

「平成22年度福島県原子力防災訓練」 実施される

11月26日(金)平成22年度福島県原子力防災訓練が実施された。

原子力防災訓練は、原子力災害から国民の生命、身体

及び財産を保護するため、原子力災害対特別措置法に基づき、国、地方公共団体、原子力事業者等関係者が共同しておこなうものであり、福島県からの要請に応じ当放射線技師会も参加している総合訓練である。



今回参加した訓練は、環境医学研究所内除染室〔第二次緊急時医療施設〕を使用して第2次診断除染チーム(医師1名・看護師2名・放射線技師4名・事務1名・事業所放射線管理要員)による、原子力発電所内で負傷した患者が発電所内での処置では放射性物質の表面汚染が残り、また内部被ばくの可能性もあることから、負傷者への除染と創傷の応急処置及び内部被ばく検査を行う事を目的としたものである。放射線技師の主な役割は搬送されてきた負傷者に対して GMサーベイメータによる表面汚染検査を行い汚染部位の特定、除染を行う毎に表面汚染検査を実施、鼻腔スミアと創傷部位サンプルの採取物の汚染検査、除染終了後の負傷者に対するホールボディカウンターによる内部被ばく検査、さらに負傷者の搬入から第二次被ばく医療機関(県立医大)へ送るためのヘリポートへの搬出、管理区域の解除、現地本部との連絡など、消防隊・発電所職員等を含めた総合的な医療活動であった。

(共立 安達)

「第18回福島県画像技術研究会講演会」 のご案内

～マンモグラフィーにおけるデジタル撮影の現状～

下記のとおり第18回福島県画像技術研究会学術講演会を開催致します。ご多忙中の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

記

日時 平成23年1月22日(土) 14時30分より
場所 福島テルサ3F「あぶくまの間」

寄稿

「平成21年度学術奨励賞」を受賞して

県立医科大学附属病院放射線部 永井 千恵

この度は学術奨励賞を受賞させていただきまして、ありがとうございます。

私たちは今回、3D-Resolutionを考慮した画像再構成条件の検討という題で、CTを撮影した後に3D再構築やMPR作成を目的としたvolume dataを作成する際の再構成条件についての検討を行いました。

この検討を行う以前まで、当院ではvolume dataは画像スライス厚の半分の間隔で再構成するもの！と教科書に倣った条件で再構成を行っていました。しかし3Dデータを保存してきたサーバーの容量が少なくなり、サーバーへの負担を少しでも減らすために再構成間隔を大きくし画像枚数を減らせないか？という現実的な事情から、今回の検討が始まりました。

当初、私たちの予想は体軸方向に長いデータを用いてMPRを作るときは512×512の画像となり解像度が落ちるので、画像スライス厚を厚く再構成間隔を粗く再構成してもいいのではないかといいものでした。しかし実験を進めると予想に反し、体軸方向に長いデータでMPRを作成しても体軸方向のMTFが低下せず、そこから当院のCT本体ワークステーションで作成したMPR画像は512×512以上のmatrixを持つことがわかりました。いつも使用している装置なのにこんなことも知らなかったのか...と反省を得られた結果でした。思い込みではなく、こうして実験で根拠を得ることが大切なのだ改めて感じました。



また、今回の実験では面内と体軸方向のMTFを同じ方法で測定するためにエッジ法を用いて測定を行いました。予備実験時にワイヤーやコインファントム、ボールペンの球など色々なファントムで測定を試みた結果、測定法によって誤差があることもわかり、とても勉強になりました。

最後になりましたが、今回の賞をいただけたのはご指導をいただいた先輩方、毎晩遅くまでデータ解析に力を貸していただいた同僚の方々のおかげと心から感謝しております。本当にありがとうございました。

福島県厚生連 白河厚生総合病院 田代 和広

この度は平成21年度の学術奨励賞、誠にありがとうございます。はやいもので診療放射線技師になり10年以上が経過しました。その間に転勤や結婚、そして3人の子を持つ親にもなりました。新人の頃は学会、研究会などで発表や講演される先輩方がとても格好良く、羨ましく拝見していました。研究や発表などをどのように手掛けるかなどは漠然としか分からず、ましてやスライド作成(当時は35mmフィルム)、パワーポイントでのパソコン操作など、ずぶの素人でした。幸いにして職場の先輩に恵まれ、少しずつではありましたが前進することが出来ました。今回受賞させて頂いた「当院におけるVirtual WedgeとPhysical Wedgeの比較検討」は放射線治療分野の研究です。Virtual Wedgeとは金属の固体物理フィルタ(Physical Wedge)を用いず、絞りの制御で照射



強度を変化させた線量分布を得る技術です。金属の固体フィルタを用いない事で、結果的に患者さんへの散乱線減少、照射時間短縮、何より取り外しの際、脱落事故防止とメリットが大きいです。携わっている機器の更新もあり、使用する医療機器の性能を引き出して患者さんへ良い医療を提供したい一心でデータ収集をしたのを覚えています。この研究に関しましては、近隣施設の方にいるとアドバイスを頂きました。これからも技師会活動を通じ地域医療に貢献できるよう微力ではありますが、精進していききたいと思います。

「第23回日本消化器画像診断情報研究会 福島大会」のご案内

師走の候、皆様方にはお変わりなくご活躍の事とお喜び申し上げます。さて、福島県放射線技師会消化器撮影分科会では、昨年9月より上記研究会の開催に向け、多くの時間を費やし議論を重ねて参りました。

このほど、下記内容にて開催する運びとなりましたのでご案内いたします。今回私たちは、“消化器画像診断の現状と明日への懸け橋”を大会テーマに掲げデジタルX線TVや超音波検査、CTcolonographyなど内容の幅を広げ、消化器検査の明日を探究します。胃X線検査をおこなっている皆様はもちろんのこと、そうでない方にも足を運んでいただける内容を企画しました。時節柄、ご多用中とは存じますが、多くの方の参加を心よりお待ちしております。

日 時：平成23年2月11日(金)、12日(出)
午前 9時30分 受付
午前10時10分 開会

場 所：コラッセふくしま 福島駅西口

会 費：事前登録4,000円、当日登録5,000円

※当日は、社団法人福島県放射線技師会の会員証をご提示ください。

“事前登録方法について”

大会ホームページの事前登録フォームより、登録して下さい。

ホームページアドレス <http://fukushima23th.net/>

登録後、大会口座にお振り込みをお願いします。

振込期限 2011年2月9日(水)

支 部 だ よ り

浜 通 支 部

市民公開講座「2010 いわき乳腺疾患フォーラム」開催される

12月5日(日)の日差しの穏やかな暖かい午後、「2010 いわき乳腺疾患フォーラム」が、いわき明星大学大講義室で開催され、福島県放射線技師会浜通り支部も共催させて頂きました。講演は、「いわき市における乳がん検診の現状」と題して福島県保健衛生協会(いわき地区センター)の里見孝弘先生が、日本の乳がん検診の現状、福島県下市町村の乳がん検診受診率と比較して、いわき市の乳がん検診受診率が低い現状を話して下さい、会場にいらした市民の皆様が家族、友人、知人に検診を勧めていただき受診率の向上を目指すべく、早期発見、早期治療を呼びかけました。特別講演は「予防できる癌、早く見つけられる癌 肺がん、子宮頸がん、乳がん」と題して順天堂大学医学部 外科学教室 乳腺・内分泌外科

学 専任准教授 斉藤光江先生が講演して下さいました。斉藤先生は、主に乳がんの早期発見、早期治療の重要性、そのための自己検診についてスライドなどを交えて市民の皆様が目線で分かりやすく、語りかけるように解説して下さいました。お二人の先生共に、乳腺疾患治療において高名な先生ですので、参加された市内外の皆様は熱心に聞き入っておりました。



講演後のQ & Aセッションでは、市民の皆様が日頃から疑問に思っていること、家族性乳がん、セカンドオピニオン、患者さんのご家族の皆様からの訴えなど多岐にわたり、中にはインターネットでの話題など我々放射線技師以上の知識を持っておられる方も見受けられ情報時代の伝達の早さに驚かされ、閉会が大幅に遅れるほどの盛況ぶりでした。運営関係者の皆様、ご苦勞様でした。

(共立 村上)

県 北 支 部

「県北支部勉強会」並びに「新年交流会」のご案内
県北支部では平成23年2月19日(土)、「県北支部勉強会」並びに「新年交流会」を開催致します。各施設からの多数の参加をお待ちしております。

(勉強会) 日時：2月19日(土) 15時～

場所：福島テルサ 3F

内容：320列CT「Aquilion ONE」冠動脈、頭部血管撮影、Zio(フュージョン)大原医療センターの使用経験について、等

(新年交流会) 勉強会終了後 17時～

参加費：3,000円

編 集 後 記

2010年の漢字は「暑」でしたが、夏の暑さを忘れてしまうくらい寒い日が続きます。先日も会津の国道で雪のため車が立ち往生になったり、停電になったり。停電になってしまうと我々の商売がったりだなぁなんて考えてしまいました。ともあれ2011年も会員の皆様は健康で業務に励めますようお祈り申し上げます。(本間)